

令和4年度 国語科実践・研究計画

部 員	○鎌田 雅子, 進藤由貴子, 菅野 宣衛
-----	----------------------

研究テーマ
自覚的に言葉の力を働かせ、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

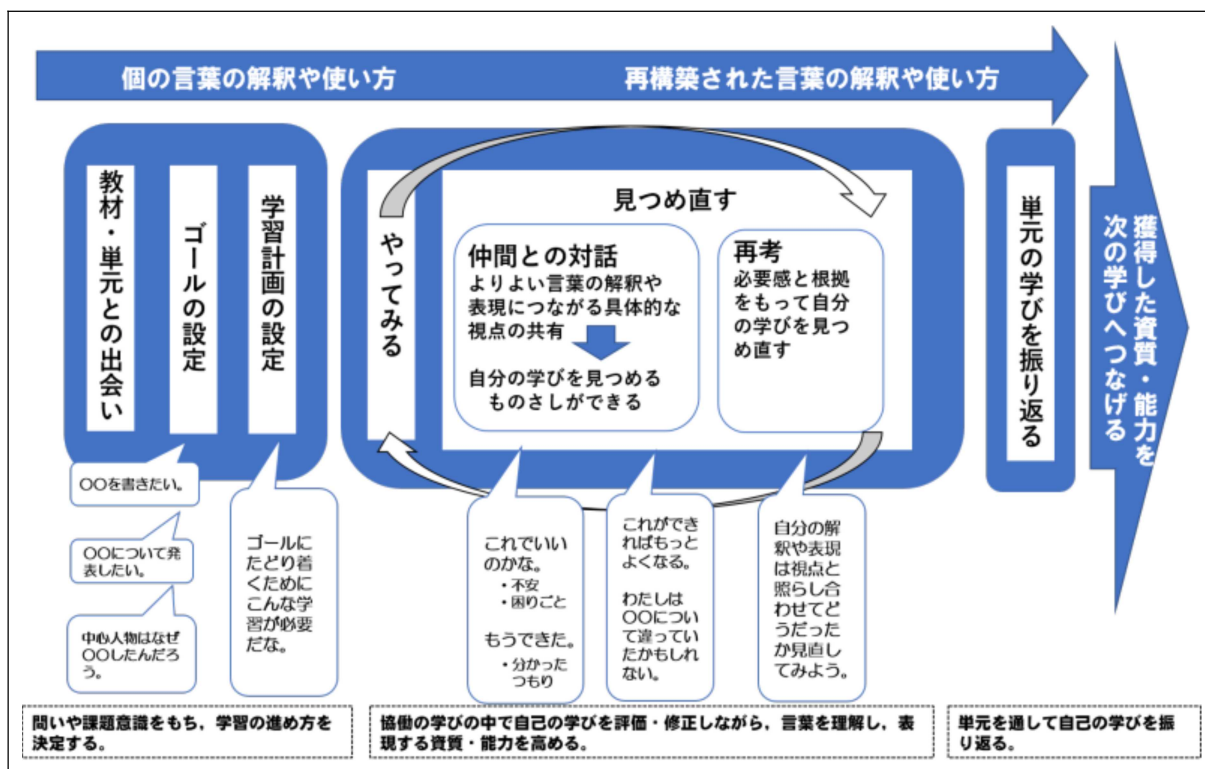
1 研究テーマについて

国語科の学習は、これまで何気なく使ってきた言葉を学習の対象として意識的に捉え直すことで「言葉がもつ力」を学び、自らの「言葉の力」を更新することである。自分ももつ言葉への理解や経験をもとにしながら課題を設定し、これまで無意識に使ってきた言葉そのものや言葉の使い方による効果を仲間との対話を通して再構築し、次の学習場面や生活の中で活用することのできる、自律した学習者を育むことを目指している。昨年度までの実践では、協働的な学びの中で互いの考えが妥当であるのか吟味しながら学びを深めていくことに課題が見られた。

そこで、仲間との対話の中でよりよい言葉の解釈や表現につながる具体的な視点を共有し、根拠をもって自らの言葉の力を更新させていく子どもの姿を期待し、「自覚的に言葉の力を働かせ、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

国語科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 根拠をもって自らの解釈や表現を吟味し、言葉を適切に理解してよりよく表現しようとする姿
- ・ 自覚した言葉の効果や言葉に着目した学び方を単元を越えて活用する姿



図：国語科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

よりよい言葉の解釈や表現につながる省察のものさしを子どもと共有するための手立て

- ゴールを子どもと共有し、付けたい力を明確にした単元構成の工夫
- 考えを分類・比較したり、効果的だった学び方のよさを検討したりする協働の学びの場の設定